



カトリック中央協議会
CATHOLIC BISHOPS' CONFERENCE OF JAPAN

会 報

《2014年12月号（519号）》

目 次

報 告	
・特別臨時司教総会	1
・常任司教委員会	2
・学校教育委員会	3
・カリタスジャパン	4
・正義と平和協議会	6
・中央協議会事務局（総務）	8
公文書	8

特別臨時司教総会

■2014年度特別臨時司教総会

日 時	2014年10月2日（木）13:00-16:00	
場 所	日本カトリック会館 マレラホール	
出席者	会 員	16人
	招請者	1人
	オブザーバー	4人
	総会事務局	7人

報 告

2015年度日本カトリック司教協議会予算編成のための年間活動方針について

2015年度予算編成のための司教協議会年間活動方針が10月の常任司教委員会において確定したことが報告された。

審 議

1. 「叙階の祈り」の旋律について

本特別臨時司教総会での諸意見を加味して修正した、「司教叙階の祈り」「司祭叙階の祈り」「助祭叙階の祈り」の各旋律を承認した。

2. 学校教育委員会委員長の確定について

池長 潤大司教の引退にともない、後任の学校教育委員会の委員長を高見三明大司教とすることを承認した。また、司教修道者合同委員会は、3名の大司教が担当しているため、後任として、前田万葉大司教に依頼した。

3. 神のしもベユスト高山右近列福の早期実現を求める全司教連名による要望書提出について

神のしもベユスト高山右近の早期列福を求める全司教連名による書簡を教皇フランシスコと列聖省長官アマート枢機卿に提出することを承認した。

常任司教委員会

■10月定例常任司教委員会

日 時 2014年10月1日(水) 10:00-15:15

場 所 日本カトリック会館 会議室2

出席者 委 員 6人

事務局 7人

報 告

1. 教皇庁福音宣教省委員任命について

教皇フランシスコは、新潟教区の菊地 功司教を教皇庁福音宣教省の委員に5年の任期で任命したことが、9月13日バチカンより発表された。

2. フィリピン司教協議会からの招待について

フィリピン司教協議会から、2015年1月の教皇フィリピン来訪の際に、アジアの司教たちとの会合を開催したいので、1月14日-19日に司教協議会会長である岡田武夫大司教を招待したいとの通知が届いた。

3. 日本司教団のアド・リミナに向けての準備について

9月常任司教委員会での検討結果に基づき、日本司教団のアド・リミナ準備経過として、省庁訪問予定や男女修道会総長を招いての昼食会の予定などについて報告を行った。

4. タグレ枢機卿の訪日スケジュール案について

2015年2月3日の高山右近殉教400年記念ミサに日本カトリック司教協議会として招待するフィリピンのタグレ枢機卿の訪日スケジュール案を策定したことが報告された。本常任司教委員会での諸意見をもとに一部修正を加え、司教協議会会長名で招待状を送付する。

5. 中央協議会口座の東日本大震災復興義援金残高について

9月30日現在の中央協議会口座の東日本大震災関連・義援金残高報告が行われた。義援金総額は73,541,648円、支出合計は、47,937,067円、残高は25,604,581円となった。

審 議

1. 2014年度特別臨時司教総会議案について

2014年度特別臨時司教総会で取り扱う報告事項と審議事項を承認した。

2. 脱原発文書作成について

2014年1月の常任司教委員会において、韓国司教協議会発行の脱原発司教団文書邦訳の出版準備を進めていくにあたり、日本の脱原発のメッセージ発表以降の状況を踏まえての司教勉強会の準備を社会司教委員会が行うことを申し合わせた。その対応として本常任司教委員会に提出された脱原発文書作成に関する件について審議を行い、第一に、司教団メッセージ「いますぐ原発の廃止を」に続くメッセージを発表することを念頭に、その研究資料となる文書を作成する方向性を確認し、社会司教委員会に検討を依頼した。

3. 中国・正定教会事件に関しての日本司教協議会からの手紙要請について

2014年10月下旬に中国で行われる国際学術シンポジウム（テーマ：正定教会事件および戦時における宗教の人道主義援助）に、本常任司教委員会で一部修正を加えた司教協議会会長書簡を中国語に訳して送付する。

4. 『司牧に関する法規の手引き』の内容承認について

司牧の手引き編纂特別委員会から提出された『司牧に関する法規の手引き』については、本常任司教委員会で出された諸意見および、10月末日までに司教委員から出された意見を加えて11月の常任司教委員会で最終的な内容承認を行う。

5. 2015年度予算作成にあたっての司教協議会としての年間活動方針について

本常任司教委員会に提出された、日本カトリック司教協議会予算編成のための2015年度活動方針（案）を常任司教委員会として承認し、10月開催の特別臨時司教総会の報告事項とする。

学校教育委員会

■第144回学校教育委員会

日 時 2014年9月12日（金）15:00-17:00

場 所 幼きイエス会 ニコラ・バレ修道院（東京・千代田区）

出席者 9人

報 告

1. 委員長交代について

池長委員長は8月20日に退任が認められたため、委員長は交代となる。

2. “EDUCATING TODAY AND TOMORROW” 翻訳と質問に対する回答について

委員長と秘書による回答原稿を作成し、ロバート・キエサ師（イエズス会）の翻訳により締め切り前に回答した。回答を一読願いたい。

審 議

1. 2015年度「長崎・五島列島研修旅行」企画について

2013年度に開催した「長崎・五島列島研修旅行」は隔年で実施する予定とし、2015年度の予算に盛り込むことが決まった。2015年8月18日（火）-8月21日（金）を候補日とし、前回引率の清水委員が旅行社、レンゾ・デ・ルカ師（イエズス会、日本二十六聖人記念館館長）、巡礼センターと調整することになった。2015年1月頃案内を発送する予定。

2. 2015年度「事業計画」と「予算」について

「長崎・五島列島研修旅行」を含んだ「事業計画」と「予算」を検討した。

3. 学校教育委員会が取り組むべきテーマの検討(課題発表)
- a. 日本カトリック学校連合会の動き(西田委員)
過去に連合会がかかわった研修会などの情報が報告された。
 - b. カトリック学校現場で取り上げたら良いと思われる具体的なこと(清水委員、永尾委員)
社会問題・貧困問題などを取り上げて、しっかりした指導をしたい。“カトリック学校しかできないこと、神様の存在、人を大切にすること”を伝えていくことが一番ではないか。
 - c. 委員会がこれまでしてきたこと(杉田委員、寺村)
これまでの歴史や、何を求められてきたかがわかる。学校現場で要望のあることは連合会、方向付けや理念を確立するのが委員会の役目としてこれまで歩んできたと思う。深め方や切り口を時代に即して変えてきた。1992年から95年頃に頻りに研修会や黙想会を開催していた。黙想会は最近開催されていない。
 - d. 「道徳」－宗教教育を取り上げるとしたらどんなものになるか(山崎委員)
新任校長会で、研修だけでなく、黙想会のようなものを立ち上げる声が上がっている。ニーズがあるのではないか。1年に1回の黙想でも、神様の声に耳を傾ける時があると力を得られる。
 - ・道徳の教科化は11月24日のキリスト教教育懇談会で方向が定まる。仏教団体も取り組みが進んでいて、模索が必要。
 - ・道徳について指針を出すのはこの委員会である。委員会が企画すれば、司教協議会が考えていることを伝えられるのではないか。
 - ・“文科省の流れに従え”という方向にある。私学では教員免許が取りにくい流れがある。
 - e. 動画公開事例情報を集める(片山委員)
地方では研修に参加しにくく、若い世代がどのようにメディアを使っているかを認識するべきだろう。
 - ・キリスト教を知りたい人に入門・聖書講座が必要。
 - ・キリスト教学校の先生にキリスト教基本事項の説明や、推薦する教材の案内
 - ・「校長・理事長・総長管区長の集い」で画面を紹介するとか。例えば中央協のサイトの端にポータルサイトがあれば、リンクも安心してできる。学校はネットの怖さばかりを伝えて、活用できていない。
 - f. カトリック学校としては、どんなことを行えばいいか、またこういうことをやったらいいという指針と情報提供が有用ではないか。(池長委員長)
何を具体的にしたらよいか、思う存分挙げていったら良いだろう。
4. その他
- ・EDUCATING TODAY AND TOMORROW に関連してカトリック新聞に連載された浦 善孝師(イエズス会)の記事を阿南秘書より配布した。

次回委員会 2014年9月30日(火) 18:00-20:00 幼きイエス会 ニコラ・バレ修道院

カリタスジャパン

■2014年度第3回なんみんフォーラム(FRJ)運営委員会会議

日時 2014年9月25日(木) 15:00-16:45
場所 イエズス会 岐部ホール(東京・千代田区)
出席者 カリタスジャパンより1人

報 告

1. 難民保護法案について
2. カリタスジャパン助成事業の進捗について
3. アジア太平洋難民権利会議参加の報告

審 議

1. 各団体より難民関連イベントについて
2. カリタスジャパン反貧困キャンペーンイベントの出展参加について

■第4回事務局会議

日 時 2014年10月2日(木) 15:15-17:00

場 所 日本カトリック会館 会議室3

出席者 9人

報 告

1. 各部会報告
2. 事務局報告 7・8月収支報告

審 議

1. カリタスジャパン反貧困キャンペーンについて
(1)アクションデー(10月13日、東京カテドラル)の準備進捗について確認した。
(2)首都圏カトリック大学コラボ企画「豊かさの中の貧困」(11月9日、聖心女子大学)の準備進捗について確認した。
2. 2015年度予算案検討

次回日程 2014年12月日時未定 日本カトリック会館

■第4回援助審査会会議

日 時 2014年10月7日(火) 13:00-15:40

場 所 日本カトリック会館 会議室4

出席者 6人

審 議

1. 一般援助審査 計12件(国内3、海外9)を審査し、6件(国内3、海外3)を次回援助部会へ付託、6件を却下とした。
2. 国際カリタス緊急支援要請(Emergency Appeal/EA)以下4件の支援を決定した。
(1)イラク「北部イラク緊急支援(EA29/14)」10,000 USドル
(2)ギニア「エボラ出血熱緊急支援フェーズ2(EA30/14)」10,000 USドル
(3)インド「ジャム・カシミール州洪水災害緊急支援(EA32/14)」10,000 USドル
(4)パキスタン「洪水災害緊急支援(EA3/14)」10,000 USドル

次回日程 2014年12月1日(月) 13:00-16:00 日本カトリック会館

■カリタスジャパン反貧困キャンペーン アクションデーイベント

日 時 2014年10月13日(月・祝) 10:30-17:00
場 所 東京カテドラル ケルンホール(東京教区)
参加者 約250人

テーマ 貧しい人が排除されない世界のために
「排除と格差の経済にNOと言おう」使徒的勧告『福音の喜び』53より

10:30 カリタスひろば

カリタスジャパンへの協力団体、貧困関連活動団体など15団体が参加し、ワンテーブルの出展と活動紹介を実施した。また、カリタスパナマが作ったキャンペーンソングを皆で歌った。

12:50 キャンペーンの祈り

13:00 講演会

講師 浜 矩子さん(国際経済学者 同志社大学大学院教授)

テーマ 「排除から包摂へ：福音に根ざす経済活動のあり方」

教皇フランシスコ使徒的勧告『福音の喜び』を読んで、浜 矩子さんが考える経済活動とはどのようなものか。それに照らし合わせて、現在の日本の経済活動をどう見るか。

14:30 「貧困の現場から」と題し、国内外の貧困問題について、3人のパネリストから現場の声を聞いた。

パネリスト 稲葉 剛さん(NPO法人もやい 理事)

飯島裕子さん(ノンフィクションライター)

横山葉子(カリタスジャパン 海外事業担当)

16:00 カリタスジャパン担当幸田司教の進行で、浜 矩子さんとパネリスト3人によるディスカッションを実施した。

17:00 派遣の祈り 終了

正義と平和協議会

■事務局会議

日 時 2014年10月14日(火) 9:00-10:30
場 所 日本カトリック会館 会議室5
出席者 5人

審 議

定例会議の議案の確認

■定例会議

日 時 2014年10月14日(火) 11:00-16:00
場 所 日本カトリック会館 会議室2
出席者 13人

報 告

1. 9月に呼びかけた辺野古新基地建設に反対する要望書への賛同署名について
2. 司教団の脱原発についての文書の編集作業進捗状況

3. 正義と平和全国集会 2015 東京大会
日時 2015年9月21日(月)－23日(水)
場所 東京カテドラル(メイン会場)、カトリック麹町教会、カトリック目黒教会(以上東京教区)
4. 正義と平和全国集会 2014 福岡大会の振り返りと参加者の意見交換について

審 議

1. 平和のための脱核部会が東京大会で分科会をもつ件について
韓国で脱原発運動にかかわっている司祭、信徒を招聘したく、その目的、招聘案を検討した。
2. 2015年度に平和ポスター製作予定であり、その文言を検討した。
3. 正義と平和ブックレットに、福岡大会での姜 禹一司教(韓国済州教区教区長)の講演録をまとめる。
内容について検討した。
4. 2014年度全国会議について
公開講演会のテーマと講師を検討した。女子修道会が沖縄高江でシスターズリレーの活動をしており、当事者の声を聴き、沖縄の基地問題を考えるテーマにしたい。
会議の内容も検討し、『現代世界憲章』50周年をもとに正義と平和の活動の原点を考える内容の話を、光延委員に依頼した。
5. 2015年度活動計画と予算について
6. 3月の定例会議を仙台で行う件について、日程と現地の受け入れについて検討した。

■NCC 女性委員会

日 時 2014年10月8日(水) 10:30-12:30
場 所 日本聖公会 聖バルナバ教会(東京・新宿区)
出席者 カトリックから1人

報 告

1. 各教派、団体
2. 各委員会

審 議

1. 世界祈祷日のポスター、式文の進捗状況
2. フォーラム「女性の視点で聖書を読む」企画について
3. 「辺野古の今に連帯しよう」カンパ送金について

■平和を実現するキリスト者ネット

日 時 2014年10月16日(木) 17:00-19:00
場 所 富坂キリスト教センター 会議室(東京・文京区)

報 告

1. 会計、賛同状況
2. 集会・行動の報告

第129回自衛隊海外派兵中止と脱原発を求める宗教者国会要請行動(平和をつくりだす宗教者ネットより)
2014年9月19日(金) 参議院議員会館101会議室
署名提出338筆 総数101,929筆

審 議

1. 第 130 回自衛隊海外派兵中止と脱原発を求める宗教者の要請行動（10 月 17 日）、第 131 回自衛隊海外派兵中止と脱原発を求める宗教者の要請行動（11 月 13 日）のための要請メンバーを検討した。
2. キャロリング・フォー・ピース（12 月 12 日）役割分担について
3. ニュースレターの内容について
4. 11 月 27 日にカトリック麹町教会メルキセデクの会と共催で、神谷武宏牧師（普天間バプテスト教会）の講演会をカトリック麹町教会で行う。

中央協議会事務局

■総務

12 月会議予定

1 日(月)	カリタスジャパン援助審査会	日本カトリック会館
3 日(水)	部落差別人権委員会定例委員会	〃
3 日(水)	第 52 回財務委員会	〃
4 日(木)	常任司教委員会	〃
4 日(木)	新福音化委員会	〃
9 日(火)	正義と平和協議会定例会議	〃

<会報 2014 年 12 月号 公文書>

シノドス第 3 回臨時総会最終メッセージ

世界代表司教会議（シノドス）第 3 回臨時総会の最終メッセージ
2014 年 10 月 18 日

わたしたち、シノドス参加司教は世界代表司教会議（シノドス）第 3 回臨時総会のためにローマで教皇フランシスコと共に集いました。そして、様々な大陸のすべての家族、とりわけ道であり真理でありいのちであるキリストに従うすべての方々にご挨拶申し上げます。皆さんが誠実さ、信仰、希望、愛をもってわたしたちや世界に対して日々、あかししていることに敬意と感謝の意を表します。

わたしたち、教会の司牧者はそれぞれ、様々な背景や歴史を持った家庭で育ちました。司祭や司教として様々な家族と出会い、彼らのすぐそばで生活し、彼らの喜びや苦労に満ちた体験談を聞いてきました。

このシノドス総会の準備作業は、世界中の教会に質問事項を送り、その回答を得ることから始まりました。そして、多くの家族の体験に耳を傾ける機会がわたしたちに与えられました。シノドス会期中の討議は、互いを豊かにするものであり、家族が今、直面している複雑な現状に目を向けるのに役立ちました。

キリストは次のように語っています。「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。誰かわたしの声を聞いて戸をあける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするのであろう」(ヨハネの黙示録3・20)。イエスは、聖地の道を歩まれたときに村々の家を訪れたように、わたしたちの住む街の通りを今も歩き続けておられます。皆さんは、家庭の中で光と影を経験します。課題が生じ、大変な試練となる場合もあります。家族の心の中に悪と罪がはびこるとき、影は暗黒の闇へと深まるのです。

最初に、夫婦の愛に誠実であり続けるという重大な課題について考えます。信仰の弱体化、価値観の低下、個人主義、人間関係の希薄化、内省を阻むような激しいストレスが、家庭生活に影響を与えています。多くの結婚生活の危機は、辛抱強く話し合い、ゆるし合い、和解し、ときには自らを犠牲にする勇気もなく、簡単に扱われがちです。こうした過ちは、新しい関係、新しい相手、新しい結びつき、新たな結婚をもたらします。こうして、家庭状況が複雑になり、キリスト教的生活を選択する際に問題が生じるのです。

これらの課題の中で、わたしたちは生きることが試練となることについて指摘したいと思います。わたしたちは、障害や重病を抱えた子ども、高齢者の認知症、愛する人の死によってもたらされる苦しみについて考えます。これらの試練の中で、勇気と信仰と愛をもって生きている多くの家族の方々の自らを顧みない誠実さに敬意を表します。彼らは、その試練を自分に課せられた重荷とは考えずに、自分に委ねられ、自分が差し出すものとして受け止めています。苦しんでいるキリストを肉体の弱さの中に見ているのです。

「貨幣崇拜と顔の見えない経済制度の独裁」(教皇フランシスコ使徒的勧告『福音の喜び』55)という悪しき制度によって生じる経済問題のことを考えましょう。この制度は人間の尊厳を侵害しています。失業のために家族の必需品もまかなえない夫婦、希望もなく空しい日々を送る若者、そして麻薬や犯罪に陥り、その餌食となってしまうかもしれない若者のことをわたしたちは考えます。

わたしたちは多くの貧しい家族のことも考えます。彼らは生き残るために小舟にしがみついたり、希望もなく砂漠をさまよったり、信仰や霊的、人間的価値観のために迫害されたり、戦争や圧政による暴力の犠牲となったりしています。わたしたちは、暴力や搾取のために苦しんでいる女性、人身売買、保護者によって虐待される子どもや若者、侮辱され苦しんでいる多くの家族のことも考えます。保護者は、本来、子どもを保護し、信頼関係のもとで育てる人なのです。「繁栄の文化はわたしたちに麻酔をかけ、……可能性を奪われたことで先の見えない人々の生活はただの風景、自分の心を動かすことのないものになってしまうのです」(同54)。わたしたちは、共通善のために家族の権利を守るよう政府と国際組織に求めます。

キリストは、教会が、誰も締め出すことなく、いつも扉を開いてもてなす家となることを望んでいます。わたしたちは、夫婦や家族の内的、社会的な傷に寄り添い、介抱する司牧者や信徒団体にも感謝の意を表します。

さて、夜になると家々の窓の奥には灯りがともります。都会にある家、郊外や村にあるつつましい家、粗末な小屋でもそうです。その灯りは明るく輝き、心とからだを温めてくれます。夫婦の出会いによって灯されたこの灯りには、結婚生活の出来事が映し出されています。これは、たまものであり恵みです。創世記(2・18)に記されているように、二人の人間が互いに「助け合う者」として同じように「向き合って」いるのです。男女の愛は、真に自分らしくあるためには相手が必要であることを教えてくれます。男女はそれぞれ異なるアイデンティティーを持ち続けながらも、自分を開き、自らを与え合います。雅歌の中でおとめが歌っているとおりです。「恋しいあの人わたしのもの。わたしはあの人のもの」(2・16、6・3)。

この出会いが正当なものであるなら、その道のりは婚約の期間、すなわち待つ準備する期間から始まります。それは、結婚の秘跡によって完全に実現します。この秘跡において、神はご自分の刻印を押し、自らの現存と恵みをお与えになります。この道には、性的な交わり、愛情、美しさも伴います。それらは、若者の活力と若さを超えて長く続きます。その愛は永遠に続き、愛する人のために自分のいのちを捨てることもいとわない所まで至ります（ヨハネ 15・13 参照）。このように、夫婦の愛は固有で不解消であり、人間的な限界からくるどんな困難も耐え忍びます。それは、もっとも一般的でありながら、もっとも美しい奇跡です。

この愛は、多くの新しいいのちを生み出すことによって広がります。それは、子どもを産むことだけでなく、洗礼やカテケージスや教育によって神のいのちを与えること、いのちや愛情や価値あるものを差し出すことを意味します。それは、子どもを産むことができない人にもできることです。この道を歩む家族は、すべての人、とりわけ若者にとって、輝かしいしるしとなっています。

この旅路は、疲れや墮落によってしばしば険しいものとなりますが、神はいつもそこにおいて共に歩んでください。家族は、夫婦、親子、兄弟の間に存在する愛情と対話の中に、神がおられることを体験します。彼らは、神のことばに耳を傾け、日々の祈りをささげます。それは、日ごとに心がいやされるわずかな時間です。福音に従って生きることの素晴らしさ、いのちの聖性、そして信仰を子どもたちに伝えるとき、彼らは毎日、神を見いだします。祖父母も深い愛情と献身をもってこの努めを分かち合っています。したがって、家族とは、真に家庭教会です。それは教会共同体の一員である家族をまとめる家庭として拡大しています。キリスト者の夫婦は、若い夫婦の信仰と愛に関する教師になるよう求められているのです。

兄弟愛による交わりには、もう一つの表れがあります。それは、「受けるよりは与える方が幸いである」（使徒言行録 20・35）という主のことばを思い起こしつつ、愛すること、与えること、そして困窮する人、見捨てられた人、貧しい人、孤独な人、病者、異邦人、危機にある家族のかたわらにいます。それは、持ち物を与えること、友情を示すこと、愛といつくしみを表わすこと、そして、真理と光といのちの意味をあかすることなのです。

主日のミサは、神と隣人との交わりにおけるすべての結びつきを集約する頂点です。ミサにおいて、家族は全教会と共に主の食卓につきます。主は、最後の出会いに向けて歴史を旅する巡礼者であるわたしたちすべてに、ご自分をお与えになります。「キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられるのです」（コロサイ 3・11）。したがって、このシノドスでは、まず最初に、離婚者と再婚者への司牧的配慮と聖体拝領が討議されました。

わたしたち、シノドス参加司教は、次回のシノドスにむけて共に歩むよう皆さんにお願いします。つつましい家におられるイエスとマリアとヨセフの家族が、皆さんのもとに留まっています。わたしたちは、ナザレの聖家族との一致のうちに、世界中の家族のために御父に祈りを捧げます。

父なる神よ、すべての家族において、勇気と知恵に満ちた夫婦が自由で一致した家族を築くことができますように。

父なる神よ、夫婦が平和のうちに家族と共に生活する家庭を築くことができますように。

父なる神よ、子どもたちが信頼と希望のしるしとなりますように。若者が揺るぎない心で忠実に献身する勇気を持つことができますように。

父なる神よ、すべての人の手に食糧が行き渡りますように。すべての人が心に平穏を感じ、闇の中でも信仰の灯りをともし続けることができますように。

父なる神よ、わたしたちが皆、より忠実で信頼できる教会、公正で人道的な社会、そして真理と正義とあわれみを大切にする世界の実現を目にすることができますように。

(原文：イタリア語)

「2014年世界難民移住移動者の日」委員長メッセージ

第100回 世界難民移住移動者の日(2014年度) 委員長メッセージ

「よりよい世界」の実現に向けて

教皇フランシスコは、今年のメッセージのテーマを、「移住者と難民、よりよい世界へ」としました。世界は今、これまでにない形で相互に依存し関わりあっていますが、このことは同時に、多くの移住者や難民を生むことにつながっています。どのような形であっても、彼らには「一人ひとり人間が尊厳ある中心的存在であることが守られ、促され」なければなりません。ところが、実際にはそれとは程遠い現実の中で、多くの方は苦しい状況に置かれています。

教皇は、「より良い世界」は、争いや格差を生む「より多く持つ」競争によってではなく、一人ひとりがより良く存在することのできる世界を目指すことによって実現すると指摘します。

2013年度、日本は3,000人を超える難民申請者に対して、わずか6人を認めただけでした。「出会いと受け入れの文化が拒絶の文化にとって代わるときこそ、よりよい世界が訪れるのです」という教皇の呼びかけに、日本こそ率先して応える必要があります。私たち教会も祈りと行動を持って、「受け入れと出会いの文化」の作り手となりましょう。

2014年9月28日

日本カトリック難民移住移動者委員会

委員長 松浦 悟郎

「2014年世界難民移住移動者の日」委員長メッセージ 英語版

100th Annual World Day of Migrants, Refugees and People on the Move 2014

Toward the Realization of a “Better World”

Pope Francis chose as the theme of this year's message, "Migrants and Refugees: Towards a Better World". On a global level and in unprecedented ways, the world has now taken on a mutually dependent and interactive form. However, at the same time, this form has also given rise to many migrants and refugees. Whatever the form, it must include "the protection and the advancement of the dignity and centrality of each human being," and that includes migrants and refugees as well. However, the fact is that in reality we are very far from this and many have been placed in very difficult situations.

The "Better World" that the Pope emphasizes will not be realized by competition to "Have More," which only produces disputes and disparities, but will be realized by our aiming to achieve a world where it is possible for each and every human being to have a better existence.

In 2013, a mere and minimal six people were accepted as refugees from the more than 3,000 people who petitioned for asylum in Japan. It is necessary for Japan itself to take the initiative and respond to this call from the Pope because "it is only when a culture of encounter and acceptance replaces a culture of rejection that a better world is realized." Let us, the Church, with prayer and action, become the creators of a "culture of encounter and acceptance."

September 28, 2014
Catholic Commission of Japan for Migrants, Refugees and People on the Move
Matsuura Goro, Chairperson

カトリック中央協議会 「会報」 2014年12月号 (通巻519号)

発行日 2014年11月20日

発行 宗教法人カトリック中央協議会 <http://www.cbcj.catholic.jp>

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 電話 03-5632-4411 Fax 03-5632-4457